

2024 年度実施概要

学校名

与論町立茶花小学校

採択活動名

ユンヌの海を守りたい

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. ユンヌたんけんたい	3 学年	海洋教育
2. 海からのおくりもの 与論とわたしたち～特産物から～	4 学年	海洋教育
3. ユンヌの海とわたしたち 与論とわたしたち～伝統文化から～	5 学年	海洋教育
4. ヨロンのタカラ探し	6 学年	海洋教育

取り組みの概要

3 年生は「海を知る」 4 年生は「海に親しむ」 5 年生は「海を守る」 6 年生は「海を利用する」を中心テーマに、海洋教育推進協議会と連携した体験活動を位置付け、言語活動の充実を図りながら海洋教育における探究課題の開発と実践を行った。 3 年「もっとヨロンを知ろう」 5 月「与論のいいところはどこ？」をテーマに、赤崎鍾乳洞やサザンクロスセンターを見学し、与論の歴史や、動植物などに触れ、与論の自然の豊かさに気付くことが出来た。6 月～7 月には、ペットボトルなどの資源ごみを利用して、もっと与論の海を楽しめないか考え、ペットボトルを使ったイカダ作りの実験を行った。うまく浮かばなかったり、分解してしまったりした失敗から、どんな形にすればもっとたくさんの人間が乗ることのできるのかを皆で話し合い、「ボトル 1 本あたりの浮力」や、船が浮かぶ仕組みなどを調べ、2 学期にはさらに大きく頑丈なイカダを完成させ皆で海に浮かべることができた。さらに、1～2 学期に行った、海で泳いだり遊んだりする活動では、きれいな貝殻を見つけたり、魚やカニなどの生き物と触れ合ったりしており、与論の海の美しさや楽しさにも改めて気付くと共に、海岸に落ちているゴミに問題意識を持つことができていた。 4 年「海からのおくりもの」 「海に親しむ」をテーマに体験活動を中心に与論について紹介する活動を行った。 1 学期は 5 学年と合同でさとうきびを栽培した。成長の過程をタブレットで撮影しスライドでまとめた。また、ソウルのハンサン小学校とオンラインで国際共同授業をする機会があった。与論島の良さを紹介した後、地球のためにできる 5 つの約束を一緒に考えて、海での活動を中心に与論で自分たちができることを実行した。 2 学期には、さとうきびを継続して観察したことと、魚釣り体験を保護者の協力のもとに江ヶ崎で行った。初めて釣り竿をもつ児童も多く、釣り竿の準備から、餌のまき方、つけ方また、魚が釣れた時の喜びなど海への親しみがより深まったようだ。	  
---	---

3学期は、さとうきびのキビ刈りと民俗村で黒糖づくりと草木染め体験をした。黒糖ができるまでの苦労を実際に体験して、児童は今までの黒糖への見方が変わった。

5年「ヨロンの海とわたしたち」

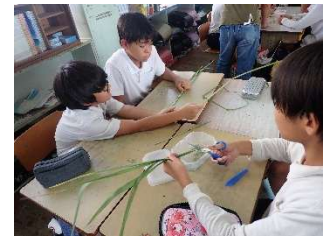
「与論を知ろう」をテーマに学習を行った。

1学期は、町内の学校との海洋体験学習を通して海での活動を行った。そこから課題を見つけ、解決方法などを調べる活動を行い、スライドで発表を行った。

2学期は、講師の方を招き、与論の植物から採った香りを混ぜた環境に優しい石鹸作りを行ったり、与論十五夜踊りや奉納相撲について調べたりするなどした。

3学期は、年間を通して育てたサトウキビのキビ刈りと黒糖作りの体験活動を行った。サトウキビに関する体験活動から、スライドを作り発表を行っていく。

子供たちは年間を通して外部から講師を招いて、直に取材をしたり、体験をしたりできたことで、知識だけではなく身近な経験として島の魅力に触れることができていた。



6年「ヨロンのタカラ発信」

これまで、海のことについて学習してきた。今年は、そんな海に囲まれた中でどんな文化、伝統が育まれてきたのかについて調べた。

食班、音楽班、行事班、工芸班に分かれ、調査を行った。工芸班は与論民族村で教えてもらった、葉っぱで虫かごやお皿などを実際に作ることができた。食班では、地域の方と一緒にミシジマイやむぎ焼きの歴史を聞きながら、調理し、食べることができた。音楽班では、昔の民謡を調べ、自分たちで三線も練習し、みんなで歌を歌う機会を作った。行事班は、十五夜踊りやサンガチなどの昔と今のちがいを調査し、どのように変わってきているのかをまとめた。

今回調査し、様々な伝統、その由来、島民の方々の思いを知ることができた。今後は、自分たちの世代がどのように伝統を受け継ぎ、守っていくのかを考え続けていかなければならない。



活動中の写真

デジタルデータにて2〜3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)